

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

地域づくりにおける

「人」の重要性

「地域の元氣創造」をテーマに、

総務省と鳥取県が主催する全国市町村長サミット2018 in鳥取が、10月11日に米子コンベンションセンターで開催されました。「鳥取県の中山間地域における生活支援サービスの継続」というテーマで、この10月に「あいきょう」から「えんちゃん」に事業継承された町内唯一のスーパーと、移動販売をきっかけに生まれた学生とのつながり、関係人口の拡大についての取組みをお話ししました。コーディネーターを務められた慶應大学の飯盛(いさがい)義徳教授は、地域づくりで大切なポイントは、いろいろな人が相集い、相互作用によって、予想もしないような活動や価値を次々と生み出していくこと(社会的創発)だと強調され

ており、私も同感です。

また、10月16日には

3年連続社会増を実現されている、岡山県新庄村を視察しました。

小さな村ですが住宅対策に積極的に取り組む

とともに、株式会社ま

ちづくり新庄村を設立

し、テレワークの誘致やコミュニ

ティスペースの活用を行われてい

ます。道の駅も加工所が併設され、

特産のヒメノモチを中心に戦略的

な運営をされています。いずれの

取り組みも、中心となる人が前向

きで素晴らしかったです。サミツ

トと視察、二つの体験から、地域

づくりにおける「人」の重要性を

改めて感じることができました。



▲村民の事務作業場所を、(株)まちづくり新庄村が管理

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム活動報告

「支え合い」について、少し考えてみましょう。

支援や介護が必要な方に対して

は、様々な専門のサービスがあり

ます。入院・通院等の医療制度、

訪問介護や生活支援といった介護

制度は、これからの社会に欠かせ

ません。

一方で、そうしたサービスだけ

では、住民のニーズを満たすため

には不十分という現実もあります。

粗大ごみを出したくても一人で

は重くて運べない、手が届かなく

て電球が換えられない、仕事が忙

しくて子供を迎えに行けない……

そうした各種制度では対応が難し

い「ちょっととした困りごと」は、人口減少に伴ってますます増加することでしょう。

回目を開催しました。上で挙げたような「ちょっとした困りごと」

は、医療や介護などの専門職では

なく、誰でも支えられる小さなこ

とばかりです。地域の中に支え合

いの仕組みがあれば、より暮らし

やすい地域になるはず。

今回は、その仕組みづくりの

きっかけとして、ニーズを掘り起

こすことと担い手の発掘の重要性

について学び、ゲームやワーク

ショップを通して「支え合いとは

どういうものか」を体験しました。

支え合いの仕組みは、行政サー

ビスのように一方的に提示するこ

とでは成り立ちません。大切なのは、地域で暮らす皆さんと共に考えてゆくことです。

一人ひとりがかけがえのない「地域の宝」である——そう思えるまちを目指して、支え合いの仕組みづくりに取り組んでゆきます。第二回ワークショップは11月26日(月)を予定しています。ぜひ、地域を担う皆さんの力をお貸しください。

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。